

2012年3月期 第3四半期 決算発表後 IR 活動での Q&A

- ・ 半導体機器事業において、10-12月期の受注が想定を上回ったにもかかわらず、通期の売上高、営業利益の予想を変更していない理由は？

10-12月期の受注分の中には、来期4-6月期の売上予定分も含まれます。また、1-3月期の売上として想定していた案件の中から、来期4-6月期分へと変更となった案件などもあるため、売上高、営業利益の通期予想は変更しておりません。

- ・ 半導体機器事業の1-3月期の受注見通しは？

1-3月期の受注は、10-12月期のラッシュオーダーの反動などがあり、現時点では300億円～350億円程度になると予想しております。

- ・ 半導体製造装置分野に関して2012年の市場見通しは？

2011年暦年で▲5%～▲10%と予想しています。設備投資の調整はありますが、携帯端末が堅調なことから、より低電圧・高性能なプロセッサが求められ、ロジックやファンドリーの微細化ラインの増強投資や、高性能な NAND 需要も予想されますので、現時点では減少幅はそれほど大きくないと考えております。

- ・ 有機EL用ノズルプリンターの現在の進捗状況は？

10-12月期に開発用装置をお客さまに出荷しました。今後、有機ELテレビ用として、材料使用効率性、大型化対応、メンテナンス性などのノズルプリンターの優位性をお客さまにご評価いただき、量産ラインのご採用につなげていきたいと考えております。

- ・ メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業に関して、円高などの厳しい事業環境の中、前年同期の営業損失から黒字転換した理由は？ また、今後の見通しは？

4-12月期の前年同期比較において、売上は大きく増加していませんが、前下半期から取り組んできました収益構造改革計画による固定費の削減や、PODの販売に注力したことによるプロダクトミックスの好転などにより、収益を改善させることができました。今後の見通しに関しては、PODは北米向け商談が堅調で、その他地域においても市場拡大が見られ、CTPに関しては中国生産工場への生産移管が計画通り進み、コストダウンを見込めますので、引き続き、安定した収益を確保できるものと考えております。